

# 木製ドア 取扱説明書

## パネルドアの取り扱い

### 取り付けをする方へ

- 取り付ける前に、この説明書をよくお読みください。
- 欠陥がある場合は、取り付けを行う前にサプライヤーまでご連絡ください。

### 取り扱い方法

- ガラスが入っているものもありますので、ドアは踏まないようにしてください。
- 引きずって、ドアどうしがこすれ合わないようしてください。また、汚れないように注意してください。
- 湿気のない、通気の良い屋内で、平面に寝かせて保管してください。
- 取り付け場所の平均相対湿度に慣らしてから、取り付けてください。
- 熱または湿度の急激な変化にさらさないよう、また、室内乾燥の目的で使われる暖房など、急激な温度変化も避けてください。
- 建築現場で保管する場合は、湿気を吸収しないように、上下端と両側に油性のシーラーを塗ってください。

## 寸法調整と ドアの取り付け方

- 取り付けの際は、湿った天候下でのドアや枠の膨張を考慮して、適切なクリアランス（透間）を設けてください。完全に乾燥した状態でのドア取り付け時には、膨張を考慮して5mm程度のクリアランスを設けます。縦枠は垂直になるようにします。
- パネルドアの高さは、7.5cm以上（上からは最大1.3cm）切らないでください。幅を狭くする場合は、中の構造材が露出しないよう注意します。上下端を切断する際には、よく切れる目の細かいのこぎりを使ってください。
- ロックを取り付ける際は、ドアの強度を弱めないように注意してください。ほぞ穴のある木材は、ほぞ穴の後ろに少なくとも2.5cm残します。
- 高さ215cmまでのドアにはヒンジを3つ、それを越えるサイズには4つ使います。曲がり防ぐために、ヒンジは必ずまっすぐに並べて取り付けてください。
- 縦枠と戸当たりは、必ず直角、垂直に取り付けてください。
- 外装ドアは、できるだけ、張り出しの下、あるいは雨風等を受けないように配慮して取り付けてください。張り出しがない場合は、明るい色で塗装しておくこと、余分な熱の蓄積を防ぐことができます。
- 切断と寸法調整が終わったら（取り付けの前に）、すぐに切断面およびドアの両端に良質のシーラーを塗ってください。詳しくは、外装および内装ドア仕上げの注意を参照してください。
- 外気にさらす前に、完全に仕上げを施してください。
- ウェザー ストリップ（気密パッキン）を使うと、暖かい空気が逃げにくく、省エネ効果があります。

## 仕上げの注意

### 仕上げ処理を始める前に

- ドア全体に5/0（粒度180）のサンドペーパーを軽くかけて、指の跡や汚れをとってから仕上げ処理をしてください。
- 必要であれば、仕上げ前に部材を調整します。内部の木製パネルは「浮いている」状態ですから、木片とハンマーを使ってたたいて整えることができます。この際、ドアを傷つけないように注意してください。\*
- サンドペーパーをかけた後は、布でほこりやごみをきれいに取り除きます。ただし、刺激性、傷を付ける恐れのあるクリーナーは使わないでください。
- 仕上げ前に一旦ドアを取り付け、もう一度外してから適切な仕上げ処理をしてください。
- ドアの表面全体に適切な仕上げを行ってください。屋外に面する側に塗られるのと同じ仕上げ剤を、端（上端、下端、側面）にも同じ回数だけ塗ります。必ず、ドアが完全に乾いてから取り付けてください。
- クリアガラスが入っているドアでは、仕上げ剤が木からガラス表面に少しはみ出すようにしてください。こうしておくと、水漏れや、ガラスパティの乾燥が防げます。

### 外装部分の仕上げ

- ステインとクリア剤を使った仕上げ
  - 初めに、ステイン・アンド・シーラー剤を塗ります。これはステインとシーラーが混ぜ合わされたもので、ドアを色付けすると同時に表面を密閉します。各種カラーから好みのものを選んでください。必ず、アルキド樹脂系のステイン・アンド・シーラー剤を使ってください。どんな場合も、外装用ドアには、ラッカー系のトナーまたはその他のラッカー系仕上げ剤は使用しないでください。
  - 2回目および3回目の塗装には（最低2回は必要）、溶剤ベース（油性、アルキド樹脂系、ポリウレタン樹脂系）または、水溶ベース（ラテックス、樹脂系）のクリア仕上げ剤を使用できます。下記の(1)および(2)に、溶剤ベースと水溶ベースの長所短所を示しましたので、参照してください。
    - 溶剤ベース  
長所： 乾きが早く、強度が高く、水に強い。天候に関係なく塗布することができる。  
短所： 紫外線により劣化することがあり、水溶ベースのクリア仕上げ剤に比べると、柔軟性および耐久性に劣る。
    - 水溶ベース  
長所： 柔軟性があり、紫外線に強く、外装用として十分な耐久性がある。  
短所： 10℃以下では塗布できず、乾燥が遅く、数週間かかると完全に安定しない。安定するまでは、水に弱い。  
注意： ラテックスのクリア仕上げ剤は、塗装の間にサンドペーパーをかけないでください。
- ステインとクリア仕上げ剤を使った仕上げは、直射日光や雨風を避けると長持ちし、塗り直しの頻度が少なくて済みます。

### 2. ペンキ塗装仕上げ

油性またはラテックス樹脂系のどちらの外装用ペンキでも、美しく仕上がります。油性のペンキは、ラテックス樹脂系のペンキよりも、水分（液体または水蒸気）に対する抵抗力がありますが、耐久性と色持ちではラテックスの方が優れています。

まず、良質の油性プライマーを下地に塗ってから、その上に油性またはラテックス樹脂系のペンキを2回塗ります。

プライマーとその上に塗るペンキは、合わせて使うように製造された同一メーカーの製品を用いてください。

注意： 直射日光または雨が掛かる場所では、最高級品質の油性プライマーを下地に塗り、その上に、同じく最高級品質の油性ペンキを塗ってください。

あらゆる種類のペンキやステインに関して、または、お客様それぞれの使用条件のすべてを詳しく評価し、ご指導することはできません。どの仕上げ方法が最も適しているかについては、ペンキ販売業者にご相談ください。その際には、良質の仕上げ剤を選択され、容器に記載された使用説明に従って使用されることをお勧めします。

### 内装仕上げ

#### 1. ステインとクリア剤を使った仕上げ

内装用ドアには、溶剤ベースの仕上げ方法をお勧めしますが、ラッカー系の仕上げも可能です。ブラシで塗布する場合には、ステインを塗布する前にプリシーラー（下地シーラー）を使うことをお勧めします。

ステインの上に、少なくとも2回クリア仕上げをしておくと、長持ちします。

#### 2. ペンキ塗装仕上げ

良質の油性プライマーを下地に塗ってから、溶剤ベースまたはラテックスのエナメルを2回塗ってください。